



## 第1回 Pacific Ocean Remote Sensing Conference (PORSEC) の御案内

パシフィック・オーシャン・リモートセンシング・コンファレンスは、人工衛星に限定しない、水中音響、光学、ブイ等も含めた広い意味でのリモートセンシング技術を開発し、またその技術を海洋科学へ応用することによって、太平洋における海洋物理学、海洋化学、海洋生物学、気象学に関する様々な地球環境現象の解明を目指すものである。

アジアや南アメリカの国々は、リモートセンシング技術を学び、それを純粋な地球科学の進歩のみならず、沿岸海洋資源や環境のモニタリング（例えば、海洋や大気の汚染）に関する工業問題や社会問題の解決に応用することを強く望んでいる。従って、当コンファレンスの第一の目的は、これらの国々の科学者や技術者にリモートセンシング技術を紹介し、その国の人々がこの技術を用いることが出来るように援助することにある。

一方、J-GOFS, TOGA, WOCE, のような国際研究プロジェクトは、全地球的規模の調査の推進をはかり、

リモートセンシングの技術を全地球的な現象のモニタリングに応用することが、必要不可欠となっている。従って、第二の目的は、リモートセンシング技術を用いて地球環境や海洋資源の調査の実態と機構を明らかにすることにある。

日時：1992年8月25～30日

会場：沖縄県・沖縄コンベンションセンター

☆『論文を募集します!』

題と簡単なアブストラクト（英文 200 WORDS）を1991年7月30日までに事務局まで御応募下さい。

その際、詳細は下記事務局までお問い合わせ下さい。

事務局：〒424 静岡県清水市折戸 3-20-1

東海大学海洋学部

海洋工学科内

PORSEC 事務局 岡田

(0543) 34-0411 内線3422

編集後記：「天気」とのつきあいは学生時代以降であるが、研究機関に比較的長くいたせいか「天気」は「気象集誌」同様、論文投稿主体の専門誌との認識が強く、これまでは興味ある論文や解説記事に主として目が向いていたように思う。しかし、年齢的にも中堅（中年？）となり、また、昨年つくばから大手町に転動したこともあって行政的な視点から読むようになると、興味の対象は自ずと他の記事にも移ってくる。

“会員に役立つ学会誌”という、これまでのそして現編集委員会の基本方針が反映されてきたためであろうか、「天気」に掲載される情報も多様かつ多量となり、数年前に始まった「素顔シリーズ」、「研究機関めぐり」、「情報ファイル」から最新企画の「カラーページ」まで興味は尽きない。

さて、ここ数年来、海外での国際会議やシンポジウム

への出席者が年々多くなり、また、気象学の研究対象もグローバルとなり、国際共同研究にも多数参加してきている。これらの報告は、「シンポジウム」や「海外だより」などで紹介されるが、これらの記事は世界中のアクティブな研究活動を出席者の新鮮な目を通じて伝えてくれるのでとても楽しみにしている。多数の出席者が記事を寄せて書いているものはそれぞれの個性が出て特に興味深い。この意味で、この4月から編集を担当している「シンポジウム」の原稿にいち早く目を通すのは担当編集委員の楽しみのひとつである。担当委員としては、多数の会員が積極的に投稿してくれることを望むが、強いて一言苦言を呈するならば、やはり分かり易い（やさしいという意味ではなく論理が明解な）文章を書いていただくことを期待したいものである。（戸矢時義）